研　究　資　料

研究会会報 No.165
大阪市小学校教育研究会

発行日
令和４年３月７日
発行所
大阪市立味原小学校内
本部事務局
代表　朝　田　佳　明

第37回　総合研究発表会　全体会
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

ご挨拶
会長　朝 田 佳 明

令和３年度の大阪市小学校教育研究会・第37回総合研究発表会全体会は規模を縮小しての開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症急拡大の状況をふまえ、昨年度に引き続き中止とさせていただきました。

昨年度より続く新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた対応により、教育活動推進には様々な制約が生じる状況となっています。本研究会におきましても、恒例事業の中止・延期、研究活動の縮小・休止等を余儀なくされました。

３学期がスタートしてから、各学校、各支部、各研究部では、子どもたちの健康、安全を最優先とし、感染症対策をこれまで以上にしっかりと講じながら教育活動、研究活動を進めておられることと思います。

教育活動や研究活動を計画通りに進めることが難しい場合も多い状況の中で、会員の皆様が、できることを工夫しながら、子どもたちの力を伸ばすために日々真摯に教育活動、研究活動に取り組んでおられることに敬意を表する次第です。

今年度の教員研究発表会、総合研究発表会１年次発表は、各支部や各研究部の状況、研究内容等を踏まえ、誌上発表、ＤＶＤ配布、ＳＫＩＰ資料配信、オンライン・オンデマンド配信等、いろいろな方法を工夫しながら成果の発信に努めていただいています。３学期に入ってからの感染急拡大を受けて、急遽参会しない方法での開催に変更していただいた支部、研究部もありました。何かとご多用の中、ご対応いただきましたことに感謝申しあげます。各支部、各研究部の貴重な研究成果は、本市小学校の教育活動の充実に大きな役割を果たします。ぜひ子どもたちの力を伸ばすため、各学校での教育活動に活かしていただくようお願い申しあげます。

また、今年度９月に募集いたしました研究論文についてお礼を申しあげます。昨年度から続くコロナ禍での学校現場の混乱の中にありながら、それでも歩みを止めることなく真摯に教育研究に取り組み続けられ、研究論文としておまとめいただきました。感染症予防のため、多くの制限がある中で、実現できる効果的な教育実践についてご工夫いただいたことに敬意を表しますとともに、厚くお礼申しあげます。

さて、ノーベル物理学賞を受賞された真鍋淑郎さんが受賞のインタビューで、何度も繰り返しておられたのが「好奇心」という言葉です。地球温暖化など現代の気候研究にすばらしい功績のあった真鍋さんですが、好奇心がご自身の研究活動の原動力であったこと、研究活動では好奇心を大切にしてほしいこと、研究が本当に楽しいということをおっしゃっておられました。

私は、これは学校の教育でも大切なことだなあと思います。子どもたちが、なぜだろう、不思議だなあ、おもしろそうだなというように感じ、そして自分で調べてみたり、興味を持ったことにチャレンジしたりする、そういう、わくわくすることとの出会い、探求心、工夫する意欲を大切にし、教育活動を推進していきたいと思っています。

コロナ禍の中ではありますが、私たちが今できることを工夫しながら、日々の実践を大切に積み重ねていくことが、子どもたちの「好奇心」につながり、やがては大きく実を結んでいくことを確信しております。

今後も本研究会の活動が、子どもたちの明るい未来に資することを心より願い、皆様とともに歩んでまいります。

最後になりましたが、大阪市教育委員会指導部ならびに大阪市教育センターをはじめ、関係の皆様には、本研究会の諸活動に賜りましたご支援に心より感謝申しあげますとともに、今後もご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

＜基調提案＞
統一主題「変化する社会を主体的に生きる子どもの教育を創造する」
～主体的・対話的で深い学びの実現～

基 調 提 案

副会長　井 上 克 己

平成29年に改訂された学習指導要領の趣旨を踏まえるとともに、「大阪市教育行政基本条例」ならびに「大阪市学校活性化条例」、「大阪市教育振興基本計画」を基に、一層創意工夫をこらした教育課程による実践に取り組んでいるところです。

さて、大阪市小学校教育研究会は、平成15年度より統一主題を「変化する社会を主体的に生きる子どもの教育を創造する」とし、研究･実践を継続してまいりました。この間、時々に指摘された大阪市の現状や課題を鑑み、本市教員に求められる最新の指導内容や指導モデルを提案し、本市教育の礎を築くとともに多くの教員の育成に寄与してまいりました。学習指導要領でも、大阪市教育振興基本計画でも、「子どもが変化する社会を　豊かに力強く生き抜き　未来を切り拓く力を備える」よう求めています。今後も「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育成することを機軸に、統一主題を継承し、研究活動の深化・充実に努めてまいります。

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のための緊急事態宣言発出中や解除後も、教育活動全般の制限・縮小が続いています。

これまで、日常のこととして取り組んでまいりました公開授業、研究授業では、実施することすら困難となり、時には遅くまで議論を続けた研究部会等も開催できず、端末機器のリモート機能を駆使して部会等を制限実施しているのが現状です。

このような現状ではありますが、各研究部や各支部における研究活動の取組としては、一人一台端末機器等のオンライン、オンデマンド機能を積極的に工夫・活用し、できる限りの対策を講じ、研究活動を推進していただいております。

新型コロナ感染症拡大防止において、われわれの生活は変わり、その影響は当然学校生活においてもかなりの制限が生じています。

しかし、部会や研究発表会等の会場における感染症拡大防止対策として、参加者の人数制限、会場内での健康管理の工夫等を積極的に実施し、着実に研究目標達成実現に向けて、研究活動に取り組んでおられる各研究部、各支部の部長様、支部長様をはじめ、会員の皆様に敬意を表します。

以上のような状況下で、今年度も学習指導要領の内容をふまえ、～主体的・対話的で深い学びの実現～をサブテーマに設定し、各研究部、支部において学習指導の在り方を全市に提案すべく研究に取り組んできたところです。学習指導要領の基本方針の１つである「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進という視点から、「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業を改善することが求められています。このような学びを実現するためにどのような学習指導を展開すればよいのか、各学校、各研究部、各支部が研究開発、実践事例提案に努めてまいります。

本研究会は、昭和22年に発足以来、大阪市教育委員会、大阪市教育センターをはじめ、数多くの方々の支援のもと、実践を積み重ねてまいりました。各学校における研究活動をはじめ、22の研究部、24の支部における研究活動、「学び続ける教員」をサポートする多様な本部事業の企画・実施を通じて、組織的かつ実践的な研究を推進しています。

本年度は、今般の新型コロナウィルス感染拡大の状況を鑑み、「第37回 大阪市小学校教育研究会総合研究発表会」全体会は残念ながら中止といたしました。しかしながら、本研究会は、各教科・領域の枠を超え、今日的な研究課題を総合的にとらえ、本市教育を一層推進することを目的として継続して研究活動を行っています。

また、各研究部では「１年次発表」を、各支部では「各区教員研究発表」を行い、成果を発表・報告します。

研究会本部は、昨年度から続く政府をはじめ、大阪府市の新型コロナ感染症拡大防止策を踏まえて、かねてから計画していた役員会をはじめ、各研修や講演会の開催を制限・中止を判断・決定してきました。誠に無念です。

しかし、今後２年間、会員の研究活動を支援するため、ホームページでの発信、教育委員会・教育センターや、中学校教育研究会、幼稚園教育研究会との連携等はもちろんのこと、児童・教職員の安全を最優先にしたできる限りの感染症拡大防止策を講じ、研究活動活性化に向けた各種企画の円滑な実施を重点とし、取り組んでまいります。

次に、統一主題に迫るため、具体的な４つの視点を、提案させていただきます。

（１）人間尊重の精神を基盤とする教育の推進

豊かな人間性は「生きる力」の核となる最も重要な要素であると考えています。子どもたちの豊かな人間性を育む教育活動の充実に向け、教職員自らが人権感覚を高める研修や授業実践を、計画的に実施いたします。本部事業として様々な分野から講師を招聘し、人権教育講演会を開催いたします。

（２）主体的・対話的で深い学びを実現する指導と評価の工夫

これまでも、子どもが主体的に取り組む学習を常に目指し、実践を重ねてきています。また、「言語活動の充実」の観点から子ども相互が対話し、考えを深めたり学び合ったりする活動を積極的に取り入れてきました。このような成果を活かしながら、各教科領域で、深い学びを実現するカギである「見方・考え方」を働かせることについてさらに研究を進め、主体的・対話的な学習を一層充実させるとともに、「深い学び」の実現とはどのようなことか、具体的に示すことのできる授業モデルの提案に努めてまいります。

（３）幼稚園・中学校と一層連携した教育の推進

平成24年度より中学校教育研究会と連携して「小中一貫教育委員会」を実施し、一貫したカリキュラムづくりを進めています。

また、平成25年度より幼稚園教育研究会と連携して、研究保育や授業実践研修会への相互参加を中心に取組を進めています。

各学校においても、近隣の幼稚園や中学校との円滑な接続を意識した取り組みを進めているところです。

（４）研究部・支部における研究活動の活性化

学校現場では「経験の浅い教員」が急増しています。指導研究、教材開発に取り組みつつ、指導技術や理念の継承に力を注ぐべき時です。

経験の浅い教員に実践と指導研究の場を提供するため、「研究の日」を設定しています。おおむね経験４年目の教員を、希望する研究部へ推薦しています。夏季休業中に実施している「学習指導基本研修」を引き続き充実させます。

将来、各研究部のイノベーションの担い手である、リーダー教員の徹底支援を通じて「研究リーダー育成研修」の充実を図ります。

以上４つの視点から、実践的な取組を進めます。

合わせて、教育委員会事務局指導部、教育センターのご指導のもと、本市児童の学力向上、人材育成に積極的に寄与してまいります。

まとめにはいります。

今後の社会状況では、学校内での研究活動を推進していく上で、新型コロナ感染症拡大防止について、何らかの対応策を講じることを並行して取り組むことが、必須となることは容易に想像できます。

そこで、児童・教職員の健康・安全を最優先とした新しい対面授業の形態、リモート技術を活用した授業形態等、授業形態の改善・工夫をはじめ、各研究部・支部の研究体制についても、デジタル技術の活用等の新しいアイデアを取り入れて、大阪市小学校教育研究会の研究活動を持続、進展させることが急務であると考えています。

その一方で、グローバル化の進展や人工知能（ＡＩ）の飛躍的な進化を一例とする絶え間ない技術革新など、現代社会は急速に変化し，予測が困難な時代となっています。このような状況の中で、子どもたちに新しい時代に求められる「資質・能力」を確実に育んでいくことがよりいっそう求められています。学習指導要領の基本方針の１つである「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進に向けて、これまでの取り組みの成果を活かし、各校における授業改善を日々丁寧に積み重ねていくことが大きな成果につながることは言うまでもありません。

私たち大阪市小学校教育研究会は平成29年度に創立70年を迎えました。これまで多くの先輩方が時々の課題を踏まえ、教育改革に邁進してこられた努力、実践の積み重ねが今日を支えています。これらの歴史と伝統は、全国どの研究団体の追随も許さないと自負しております。

今こそ70年をこえる歴史を振り返り、常に最新の実践を提示し、全国をリードしてきた誇りを再確認する時です。

学習指導要領をはじめとする教育施策にはいち早く対応し、新たな指導計画、学習過程を提案してきました。最新の授業モデルは常々各研究部等から提案されています。これらの情報を実際の授業公開を通じて会員隅々にまで発信、伝達をすること、各会員が自ら実践することで全会員の授業力、ひいては教師力の向上に繋げることができます。

「こんな授業を受けてみたい」「こんな先生に教えてもらいたい」すべての教室からこのような声をあげることが「学力向上」という課題への答えです。今後の各校、各部研究発表会、各支部研究発表会がそのような場となるよう支援するとともに、全会員が「学びつづける教員」として力量を磨ける研修の実施に努めてまいります。

小学校教育は本研究会が常にリーダーシップをとっているとの自負のもと、すべての子どもを「変化する社会を主体的に生きる子ども」に育むために、本研究会の独自性を大切にしつつ、大阪市教育委員会、大阪市教育センターをはじめ関係のみなさまのご指導を賜りながら、研究・研修活動を一層充実させることをお誓いいたします。

特別支援学級の国語科における協働学習のあり方
～絵本『えんとつ町のプペル』を題材とした「交流」による学び合いの提案～

いまみや小中一貫校　大阪市立新今宮小学校　主務教諭　石　川　美　希

１．問題の所在と研究の目的

特別支援学級の教育に携わる中で、児童の成功体験や主体性の乏しさ、自己肯定感の低さなどを実感してきた。特別支援学級で学習する場合、個々の課題に応じるという目的に合わせるために、マンツーマンや少人数グループでの指導になりがちである。通常学級の児童が経験しているような、多くの人の意見を聞く、多くの人に向かって自分の意見を発表するといった機会が少なくなる。また、そのような活動自体を苦手とする児童も少なくない。そこで、「令和の日本型学校教育」（中教審答申 2021）を基に、特別支援学級での「協働的な学び」に焦点を当て、「交流」という協働的な学習形態が児童にどのような学習効果をもたらすか検証することとした。特別支援学級において国語科の協働学習を実施し、話し合い活動による「共有」、読解力の育成、ユニバーサルデザイン化などを意識した授業づくりをすることで、児童が通常学級においても、より活躍し、より主体的に授業に参加できる力を育むことのできる協働学習のあり方を考えていきたい。

２．研究の方法

特別支援学級在籍児童を１年生から４年生と、５・６年生の２つのグループに分けて授業を行った。また、特別支援学級担任が順番にＴ１を担当するリレー形式で展開した。Ｔ２からＴ５は、個別の声かけや話し合い活動での支援を行なった。国語科だけでなく､図画工作科や道徳科など教科横断的な学習を展開した。

３．研究の実際

（１）使用した教材「えんとつ町のプペル」について

「えんとつ町のプペル」は、キングコング西野亮廣が制作した絵本である。どんな境遇にあったとしても、主人公のように、自分の信じた道を進み、諦めずに自分の人生を生きて欲しい、出会う仲間を大切にして欲しいというメッセージを児童に伝えたいという想いから本教材を選定した。また、動画教材も充実しており、視覚・聴覚などに訴えながら様々なアプローチがで きる教材だと考える。

（２）授業実践について

オンライン期間を利用し、Teamsを活用した音読練習やぬり絵課題を導入として設定した。主体的に授業に参加できるよう、学習課題の焦点化、意見交流の場の取り入れ方を工夫し、児童実態に応じて特別支援学校学習指導要領を弾力的に活用した。授業を重ねるうちに指導者からの挙手を求める発言がなくても、自分から挙手する児童が増えた。自然と意見交流が始まり、積極的に授業に参加するようになった。また、友だちの意見に頷いたり、相槌を打ったりする姿なども見られるようになり、児童の意欲と集中力の高まりを感じることができた。

４．研究の成果と課題

個別学習では十分に取り組みにくい他者と関わる力の育成について、「個別最適な学び」の充実を図りながら、協働学習を取り入れることで、他者意識を高めることに繋がった。どんな障がいの状況であっても、「わかりたい」「できるようになりたい」「わかって嬉しい」「楽しい」という感情は児童みんなが持っており、達成感を感じられる授業を今後も作っていきたいと改めて考えさせられる授業であった。通常学級でも自信を持ってより主体的に授業に参加できるようになるのではないかと希望を持つこともできた。これからも、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を組み合わせながら、引き続き児童ひとり一人の可能性と成長を最大限引き出す授業を積み重ねていきたい。

令和３年度　教育研究論文について

副会長　田原口　昭貞

本年度の論文応募総数は10篇でした。各校や各研究部で創意ある研究実践を行っていただいた結果であり、本年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染予防のため、多忙な中、日々の実践を研究論文にまとめられた意欲に深く敬意を表します。

審査にあたっては、**基本姿勢**（人間尊重の精神、教育への情熱などが見られるか）、**課題認識**（研究主題・目標・仮説と今日的課題の整合性が見られるか）、**研究内容**（先行研究の知識、内容・方法の独自性、適切な評価がみられるか）、**普遍性**（本市教育への発展・普及への期待度がみられるか）、**表現技術**（論述の構成、適切な例示、的確な表現、正確な表記などがみられるか）の観点から評価しました。

提出された論文は、学習指導要領に基づいた先進的な内容が多くみられました。それらは、教科学習のみならず、ＩＣＴ活用、食育など、多岐にわたっています。リモート学習やＳＤＧｓなど、今、まさに求められている教育課題に対し真正面から取り組んだものでありました。

審査した結果、優秀賞は該当者が無く、優良賞１点、佳作９点を決定しました。本研究会としては、多くの会員の指標となり、日々の教育実践に生かしていただけるものとして、ぜひ、参考にしていただきたいと思います。

審　査　結　果

○優良賞

大阪市立新今宮小学校　　主務教諭　石川　美希
特別支援学級の国語科における協働学習のあり方
～絵本「えんぴつ町のプペル」を題材とした「交流」による学び合いの提案～

○佳　作

大阪市立長吉出戸小学校　主務栄養教諭　田坂　育代
栄養教諭として家庭科調理実習に関わって

大阪市立宝栄小学校　　校長　西畑　寧三
一人一台端末を活用するために
－宝栄小学校の取り組みを振り返って－

大阪市立姫島小学校　　主務教諭　野網　　学
低学年における感じ取る力や考える力を育む
図画工作科鑑賞領域の実践的研究
－「鑑賞学習ルーブリック」を基点に－

大阪市立塩草立葉小学校　　指導教諭　李　幸　美
対話的な体験活動を通して考える力を
育む取り組みの実践
－新型コロナウイルス感染症と私たち－

大阪市立木川小学校　　主務教諭　寺農　　学
コロナ禍における学級経営を振り返る
～道徳教育とカリキュラム・マネジメント～

大阪市立高松小学校　　主務教諭　籔下　泰弘
教材研究をまるごと生かす国語科指導のあり方
～授業用パソコンと学習者用端末機を働き方の
工夫につなげ、児童の言葉の力を付ける～

大阪市立泉尾北小学校　　主務教諭　住江　真智子
児童の興味や特性を生かした入門期の算数指導
～数の理解と操作を中心に～

大阪市立大宮小学校　　主務教諭　佐伯　直美
教諭　川島　尚也
「子どもたちの手で大宮ＳＤＧsを！」
－探求心を育み、持続可能な
学校・家庭・地域の取組―

大阪市立北恩加島小学校　　栄養教諭　山本　　恵
ＳＤＧsにつながる食育の試み
－梅干し作りの工程を通して－